神の建造のための祭司職の回復（2） 第 6 週
神の福音の労苦する祭司となって、わたしたちの霊の中で、御子の福音において神に仕える

鳥瞰	ローマ人への手紙第 15 章 16 節は神の新約の福音の労苦する祭司となって、異邦人を得て、ささげ物とすることを啓示しています。わたしたちが福音の祭司として機能するために、ローマ人への手紙を見る必要があります。罪人を神の子たち,またキリストのからだの肢体とし、彼らを助けて成長させます。その目標はキリストのからだを建造することです。ローマ人への手紙第 1 章 9 節は神の子の福音において、霊の中にいてこそ、真実の奉仕ができることを啓示しています。福音のために、わたしたちは三一の神の分与とからだの供給が必要です。また神の霊によって奉仕し、肉を信頼せず、福音において主の復活の大能により労苦する必要があります。	
	真理要点	経験適用
1日	1. 新約の福音の祭司の、罪人における働きの 3 つの区分とは何ですか？ 2. パウロの書いたローマ書における、神の福音の内容とは何でしょうか？	1. 第一の区分は、罪人を導いて悔い改め主を信じさせ、彼らの罪が赦され、彼らが霊の中で再生されるようにすることです。第二の区分は、悔い改め、再生された人を導いて、彼らの魂が徐々に造り変えられるようにすることです。第三の区分は、わたしたちが主の中で成長して円熟へと至るとき、最終的に主の再来の時にわたしたちの体は変貌させられ、完全に贖われます。こうして、わたしたちの全存在、すなわち霊、魂、体は主で満たされ、浸透されて、内側も外側主も主とミングリングされるでしょう。 2. ローマ人への手紙は罪人が主を信じることによって救われることから始まり、義とされ、聖別され、造り変えを経過し、自分自身を生きた犠牲として神にささげ、キリストのからだの肢体となって召会生活をし、団体的にキリストを表現して、また彼の来臨を待ち望みます。
2日	1. 新約の福音の祭司であるわたしたちは、どのようなささげ物を主にささげる必要がありますか？またわたしたちの態度はどのようであるべきですか？ 2. 罪人が救われた後、どのように彼らを導き、自分自身をささげ、キリストの生ける肢体とさせますか？	1. 主は新約のわたしたちに、彼の選ばれた民はすべて、今日の信者であり、彼の祭司であると告げられました。あらゆる祭司は犠牲を神にささげることで、とても勤勉でなければなりません。神は、祭壇上のささげ物のかぐわしいかおりが止まるのを願われません。新約の祭司の主要なささげ物は、救われた罪人であり、拡大された団体のキリストの部分として、新約の福音の供え物として神にささげられるべきです。 2. パウロは罪人を救った後、自分の子供を育てるのと同じ方法で育てました。また彼らを導いて、自分を生きた犠牲としてささげさせました。ささげることの後、からだの生活の実行が始まり、キリストの有機的なからだの機能する肢体となります。これらの生ける肢体は彼らの賜物に応じて、預言や教えることなどのように機能します。
3日	1. 聖書から引用して、福音の祭司の体系の働きの三つの段階について説明してください。 2. 今日の新約の福音の祭司の中心と目的は何でしょうか？	1. それはローマ人への手紙第 15 章 16 節における救い、ローマ人への手紙第 12 章 1 節における命の成長、コロサイ人への手紙第 1 章 28 節における命の中の円熟です。このすべての段階は、新約の福音の祭司の体系の働きです。神聖な啓示によれば、罪人を救うこと、聖書を教えること、聖徒たちを啓発すること、諸召会を設立することはすべて、福音の働きです。わたしたちは神の大いなる喜びのために、この責任を担わなければなりません。 2. わたしたちが福音を宣べ伝えるのは、罪人を一人ずつ救い、彼らをいけにえとして神にささげるためです。これがわたしたちの奉仕の中心です。新約の福音の祭司の体系の奉仕は、キリストのからだを建造することを目標としています。わたしたちの奉仕の中心は、罪人を救い、彼らを神にささげることですが、その目標はキリストのからだを建造することです。
4日	1. 日常生活の中で、神がわたしたちの中におり生きていることをどうのようにして経験しますか？ 2. 神に使える時、清められた良心を持つ必要があるのは何故ですか？	1. 神はわたしたちの語ることにおいて、振る舞いにおいて、日常生活のあらゆる面で生きているべきです。彼はわたしたちの中に生きていて、わたしたちを管理し、指示し、対処します。彼はわたしたちをそのままにされません。そうではなく、多くの事柄で、彼はわたしたちを矯正し、調整します。わたしたちの思想や動機のような小さな事柄においてさえ、神がわたしたちを管理し、指示するという事実は、彼が生きていることの証明です。 2. キリストの血はわたしたちの良心をきよめて、生ける神に仕えさせます。生ける神に仕えることは、血できよめられた良心を必要とします。良心はわたしたちの霊の主導的な部分です。わたしたちが仕えることを願う生ける神は、わたしたちの良心に触れることによって、常にわたしたちの霊に来られます。彼は義であり、聖であり、生きておられます。わたしたちの汚れた良心はきよめられて、生ける方法で神に仕える必要があります。
5日	1. パウロの福音を宣べ伝えにおける第一の項目は何でしょうか？ 2. 新約聖書の最初の四巻が宣べ伝えている福音とローマ人への手紙でパウロが宣べ伝えている福音にはどのような違いがありますか？	1. ローマ人への手紙でパウロが強調したのは、わたしたちであるすべて、わたしたちが持っているものすべて、神に対して行なうことすべてが、この霊の中になければならないということです。パウロは、彼の再生された霊の中で、内住のキリスト、すなわち命を与える霊によって神に仕えたのであり、彼の魂の中で、魂の力や能力によって神に仕えたのではありませんでした。これが、彼の福音の宣べ伝えにおける第一の重要な項目です。 2. 新約の初めの四つの書にある福音は、死と復活の前に弟子たちの間で生活していたときの、肉体の中のキリストに関してです。四福音書におけるキリストは、弟子たちの間におられました。ローマ人への手紙におけるキリストは、わたしたちの内側におられます。ですから、ローマ人への手紙の福音は、復活した後、その霊としてわたしたちの中におられるキリストに関してです。このキリストは、四福音書におけるキリストよりもさらに深く、さらに主観的です。わたしたちは第五の福音書であるローマ人への手紙が啓示する、キリストの主観的な福音を必要とします。
6日	1. 神に仕えることは、絶対にわたしたちの肉に信頼しないことであるのは何故でしょうか？ 2. どのようにして、わたしたちは肉の中での奉仕から脱却することが出来ますか？	1. ピリピ人への手紙第 3 章 3 節の肉は、わたしたちの天然の存在の中でわたしたちであること、わたしたちが持っているものすべてから成っています。わたしたちはキリストにある信者として、自分の天然の誕生によって持っているものの何にも信頼すべきではありません。なぜなら、わたしたちの天然の誕生のものはすべて、肉の一部分であるからです。神への真の奉仕と礼拝をささげるために、わたしたちが行なうすべては神の霊によって、キリストの中で、肉に信頼しないものでなければなりません。 2. わたしたちは、主の光がわたしたちの性質、行為、肉を頼みとすることに対して、わたしたちを照らすことを必要とします。わたしたちは主に照らされたなら、再生されて、神聖な命と性質を持つ神の子供たちとなったのに、自分がまだあまりにも肉の中で生きていることを告白するでしょう。ある日、光がこれに関してあなたがたを照らすとき、あなたは主の御前にひれ伏して、自分の性質がいかに汚れているかを告白したくなるでしょう。そして、あなたは堕落した性質によって行なうあらゆる事を、罪定めします。
まとめ	このメッセージはローマ人への手紙第 15 章 16 節と第 1 章 9 節の二つの御言を用いています。これは、今日、新約の聖徒が福音の労苦する祭司となって、罪人を得て、いけにえとしてささげるだけでなく、さらに前進し、家の集会で牧養、成就し、彼らが自身を生けるいけにえとするように願わせ、命が円熟まで至り、神のささげ物となるということを啓示しています。これは、わたしたちの奉仕は霊の中で、肉体を信頼せず、復活の中にあることを要求します。奉仕の最終的な目標は、罪人をキリストのからだの建造の中へともたらすことです。	